



博物新編補遺

下

二奴<sup>L</sup>

175  
3





五  
143

3

17  
9

東京帝國  
大學圖書



博物新編補遺卷之下

慶應義塾同社 小幡篤次



植物論

萬種ノ物質皆上文ニ論説スルガ如ク六十有餘ノ  
元素ヨリ合成スルモノニシテ或ハ有機体ナルア  
ル或ハ無機体ナルアリ植物動物ヲ有機体トス蓋  
シ此二物ハ生命ノ具ハルアリ榮養ニ藉テ生存ス  
ルノ性アリ且世ヲ永フスルノ性アリ此皆生々ノ  
功用ヲ成スヘキノ機アルモノナリ金石空氣水ノ

博物新編補遺

卷之下

一



如キヲ無機物ト云フ蓋シ生々ノ功用ヲ遂クヘキ  
 ノ機アルイナシ元素ハ皆無機物界ニ屬ス其入テ  
 有機物ヲ成スモノハ品類甚少シ  
 草木ハ生命アリテ且榮養ニ藉テ生存スルノ機ヲ  
 具フル有機体ノ一ナレモ動物所有ノ性ヲ缺少ス  
 ルモノアリ草木ノ天地間ニ用アルハ重要不測ナ  
 リ特ニ動物ヲ生養スルノ用アリ此用ハ造化世ヲ  
 經營スルノ一大事件ナリ無機物ト無機流動物ト  
 ノ無用ナルモノヲ集メ草木ヲ成形シ或ハ直ニ人  
 ヲ扶助シ或ハ先<sup>ツ</sup>動物ヲ榮養シテ羽毛皮革トナリ

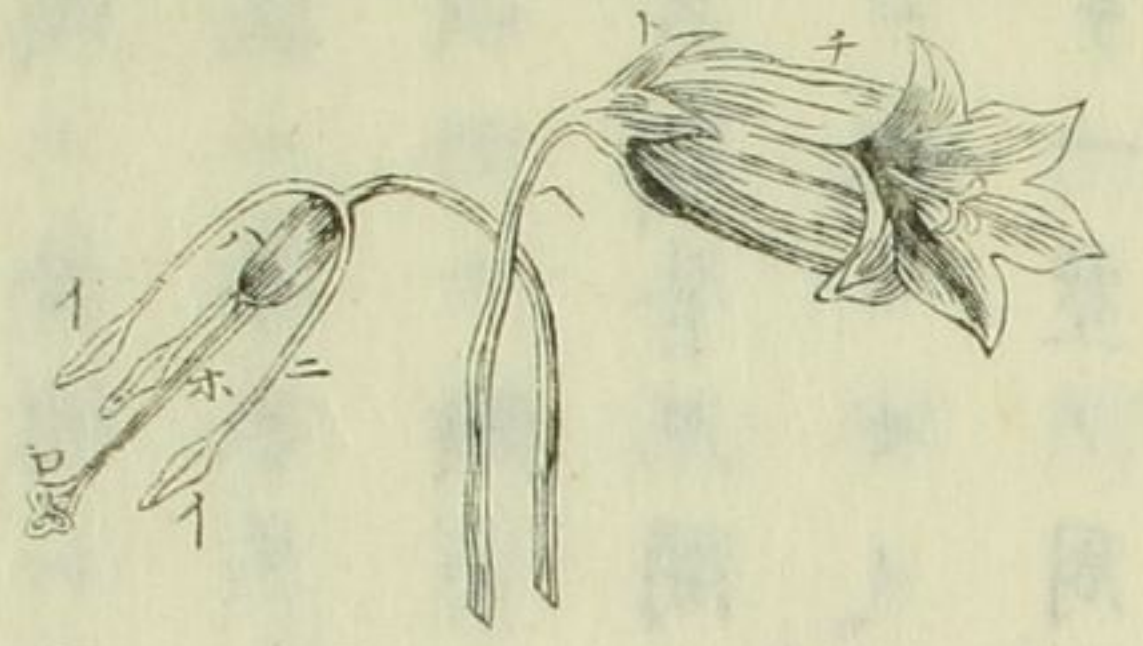
以テ人ノ採用ニ入り日用諸品ヲ供スルアリ  
 草木ノ生茂スルヤ各種皆定界アリテ且定量ノ温  
 ヲ需要ス當今地上ニ生存スルモノハ其數ハ萬余  
 種アリト云フ其大小形状ノ差別アルハ學ハサル  
 モ地上ヲ一覽セハ其大概ヲ知ルヘシ人皆岩石或  
 ハ古屋ノ上邊ニ生茂スル<sup>セン</sup>苔<sup>ケ</sup>ト澤<sup>ケ</sup>洋ニ開花スル  
 石草ト草場ニ繁殖スル草<sup>タ</sup>ト田野園庭ヲ華飾ス  
 ル花草ト人ノ食餌ヲ荷載スル穀草ト遊園ニ盛茂  
 スル花卉ト之ヲ終ルニ儼森タル<sup>コ</sup>榆<sup>レ</sup>櫟<sup>キ</sup>ヨリ柔<sup>ニ</sup>撓<sup>ア</sup>ナ  
 ル<sup>ク</sup>樺木ニ至ルマテ千區萬別アルヲ知ラサルハナ



シ然レ氏斯ク千區萬別アル造化ノ一局内ヲ分別  
 スルニ至テ特ニ分類法則ヲ採用スルニアラサレ  
 ハ得テ知ルヘカラス

草木ノ各特ナル所以ノ一ハ種子ヲ以テ生子スル  
 ニアリ瑞典國ニリンナース氏ト云フ大博物學士  
 出テ草木ノ千區萬別アルハ全ク生子機ノ殊異ス  
 ルニ在リト云ヒ遂ニ此機ノ殊異ニ從ヒ分類ノ法  
 ヲ創メリ生子機ノ一部ヲ心ト云フ圖中曰回ノ号  
 ヲ記スルモノ是ナリ又其一部ヲ鬚ト云フ曰号ヲ  
 記スルモノ二個是ナリ草木ノ中ニ一鬚ノモノ二

鬚ノモノ數鬚ノモノアリ又或ル草木ハ鬚ノ所在



他ト異ナルアリ又心ト鬚トヲ異穗ノ  
 花ニ有テルモノアリ又同穗ノ花ニ有  
 ツモノアリ又苔蘚及海草ノ如ク心鬚  
 ノ有無見ルヘカラサルモノアリ斯ル  
 各特ノ性アルヨリリンナース氏之ヲ  
 分テ一鬚科二鬚科心鬚同穗科無生子  
 機科等ノ二十四科トナセリ又此各科ノ中ニ些少  
 ノ殊異アルニ從ヒ分テ屬トナシ又之ヲ花英ノ殊  
 異アルニ由テ分テ族トナシ又其一種不易ノ性ニ



由テ分テ種トナス斯ク分類スルヲ以テ博物學士  
 簡易ニ目撃スル所ノ草木ヲ區別シ曾テ謬誤アル  
 一ナキヲ得タリ又爰ニ佛國ノ前博物學士「ジュシュ」  
 氏ノ發明ニテ天然法ト唱フル分類ノ一法アリ此  
 法ハ草木ヲ分ツニ其似同スル所ノ最多キモノヲ  
 以テ一類トス故ニ先花英ノ形狀ニ從ヒ分テ族ト  
 ス即脣ヲ開キタルカ如キモノ、十字架ノ如ク、四瓣  
 ニ成ルモノ、畧蝴蝶ニ似タルモノ、又無數ノ小花叢  
 テ一莖ノ周邊ニ附着スルモノ、如キ是ナリ  
 心ノ下底ニ子囊ト云ヘル種子ヲ有ツ卵狀ノ室ア

リ前章ノ圖解ニ「ハ」ノ号アルモノ是ナリ心ハ鬚ヨ  
 リ出ス所ノ粉ヲ受テ生カヲ種子ニ通スルモノナ  
 リ故ニ心ト鬚ト同徳ニ在ルモノハ粉ヲ甲機ヨリ  
 乙機ニ搬スル一極テ易シ是故ニ下畵ノ花ハ前圖  
 ノ如ク心鬚ノ上ニアリ上向スルモノハ鬚却テ心  
 上ニ居ル蓋シ粉ヲシテ生子機上ニ落チ易カラシ  
 ムルナリ心鬚穂ヲ異ニスルモノハ粉ヲ搬スル一  
 難タカルヘキガ如ナレ氏曾テ其用ヲ誤ルモノ無  
 シ心鬚木ヲ殊ニスルモノハ二木ノ距離或ハ遙遠  
 ナルアリテ搬送最困難ナリ然ルニ造化此難事ニ

植物學

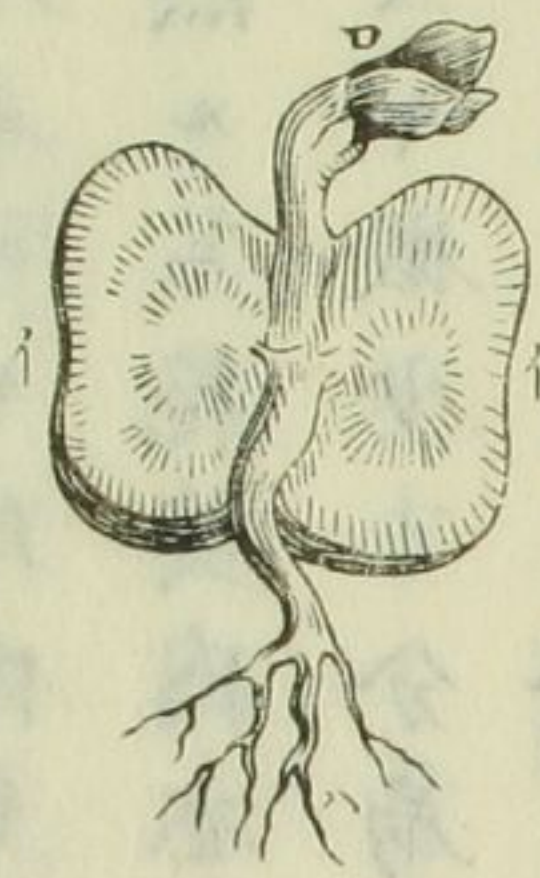
卷之二

三



穢タンカ為絶妙ノ設為ヲナシ花粉ヲシテ極テ輕  
 浮ナラシメ風吹ニ乗シ花々ノ間廣布スルヲ得サ  
 シム草芥ノ生子スルハ大概此法ヲ以テス又百花  
 皆甘汁ヲ吐クアリテ蜂ノ最嗜ムモノナリ故ニ蜂  
 ハ之ヲ吸ハンガ為花房ニ入り鬚粉ヲ被リ之ヲ心  
 アリテ鬚ナキモノニ搬シ以テ造化ノ營生功用ヲ  
 助ク子囊中ノ種子ハ生カラ得テ逐日成熟シ皆其  
 室ヲ破開シ落テ土中ニ入り空氣雨露及温ノ適度  
 ナルヲ待テ甲拆ス此時ニ至テ種子稍膨脹シ倍ニ  
 所謂ル種眼ヲ破テ一シユ織セン芽ノ出ルアリ此芽速ニ二

分シ一ハ下テ根ハトナリ一ハ上テ幹ハトナル甲



イ圖中分レテニハ若干時間織芽

ヲ資養スルノ後漸ク腐化ス根ノ  
 用タルヤニアリ一ハ樹幹ヲ固定  
 シ一ハ土中ノ汁ヲ引テ其身ヲ養

フ其法根管ノ端末ニ微木棉ト云フ逐年新生スル  
 小口ヨリ土中ノ汁ヲ吸収シ以テ其生ヲ遂ク草木  
 ノ種子萌芽スルノ時間ハ各遅速ノ殊ナルアリ芥  
 子菜ハ一日ノ後萌芽シ蓄薇ハ二年ヲ以テス  
 尋常ノ草木ハ人皆之ヲ慣見シ能ク其根幹枝葉ヨ



リ其大小長短ニ至ルマテ知ラサル所ナケレハ細  
 記ヲ要セス此圖ハ金杯花ト云ヘルモノニシテイ  
 ヲ根トシロヲ根球トシハハヲ根生ノ葉トシ  
 榦トシホヲ榦生ノ葉トシヘヲ枝トシトヲ花莖ト  
 シチヲ花トス此等ノ部位ハ精閱スル人ノ眼裏ニ  
 入ルヘキ外体局更ナリ  
 然ルニ花莖内亦注目ス  
 ヘキ微少ノ分局アリ第  
 三葉ノ圖ニ於テ鬚イ下  
 ニ微莖ニノ扶持スルモ

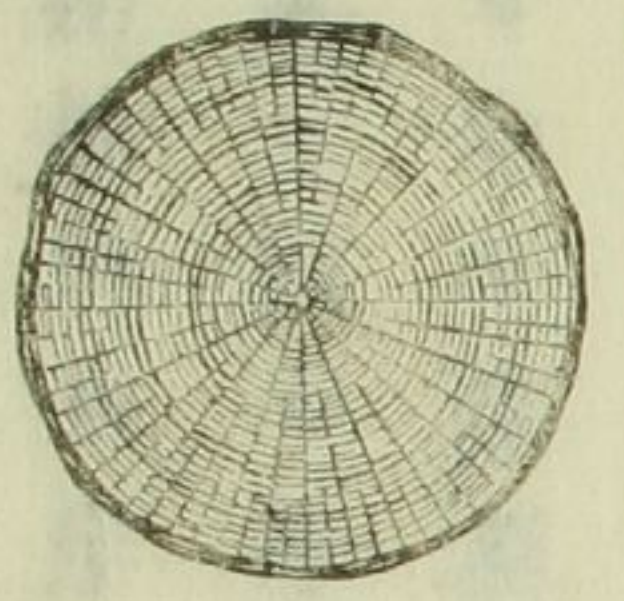


ノアルヲ見ルヘシトヲ花樹トス花亦分レテ二部  
 トナルヲヲ萼トシリヲ辨トス枝ノ直ニ根ヨリ生  
 スルハ花弁ノ常態ナリ木ハ根榦枝葉ノ備ハルア  
 リテ其枝ヲ出スヤ必ス高シ又木ハ榦枝トモ同シ  
 ク木質ヲ以テ成形セリ此乃木ヲシテ材料トナラ  
 シムル所以ナリ又穀草及蘆葦ノ榦ハ尚採テ日用  
 諸品ニ供スヘシ此ヲ下ルモノハ腐化シテ土ニ復  
 ルノ外採用シ難キモノ多シ  
 草木ハ殆ど動物ト同シク食ト空氣トヲ以テ其身ヲ  
 榮養ス其法先根ノ微水綿ヨリ土中ノ純水分炭酸



安謨尼亞及塩類ヲ含蓄スル土汁ヲ吸収シ次テ幹  
 枝ニ竅入セル無數ノ細胞ヨリ之ヲ導キ葉裏ニ輸  
 送シ晝間ハ葉ノ上面ニ布在スル無數ノ細氣孔氣  
 余ヲ有ツモノアリヨリ此汁中ニ含蓄スル酸素  
 及水素ヲ飛散スルモノ全量三分ノ二ニ居ル草木  
 ヨリ輸出スル汁量ノ大ナルハ實ニ驚ク餘リアリ  
 尋常傾日花ノ一輪ヨリ一日中三十オン<sup>ラ</sup>ヲ吐出  
 スルニ至ルト云フ又葉底ニ同様ノ氣孔アリテ炭  
 酸瓦斯及安謨尼亞ヲ吸収ス此二氣ハ大氣ノ小量  
 ニ居リ且動物ノ肺裏ヨリ出ル所ノ呼氣ト腐化ス

ル動物質トヨリ常ニ之ガ欠乏ヲ補フアリ又此汁  
 ハ右ノ如ク大量ノ酸素及水素ヲ輸出シ炭酸瓦斯  
 ノ如キモノヲ吸収シ枝幹ノ外部樹皮ノ下ヲ経テ  
 樹裏ニ回り化シテ植物質トナリ以テ其枝幹ヲ肥  
 大ニス〔附載ノ圖ハ五年生ノ樹幹横截  
 ヲ示スモノニシテ樹心其中點ニ在テ  
 毎年一層ヲ外皮下ニ生シ五層ヲ成ス  
 モノナリ此ヲ外長類トス〕又葱<sup>ソウ</sup>百合<sup>ヒョウ</sup>鬱金<sup>ウツキン</sup>香<sup>カフ</sup>椰子<sup>ヤシ</sup>ノ  
 如キハ此汁内部ヲ経テ樹裏ニ回ル故ニ其生長ス  
 ルモ亦内部ヨリス〔此ヲ内長類トス〕此種ノ草木ハ





種子必ス一甲ヨリ成レリ是以テ之ヲ一甲種ト云  
 フ外長類ノ種子ハ必ス二甲ヲ以テ成レリ之ヲ名  
 テ二甲種ト云フ草木ノ土汁ヲ引テ生養スルヤ唯  
 温暖ナル氣候ノ間ノミ冬候將ニ至ラントスルニ  
 及テ汁ノ昇降止テ常<sup>シヤウセイ</sup>青木ノ外ハ木葉已ニ用ナキ  
 ヲ以テ凋落スルヲ常<sup>トキハ</sup>トス春光回復ノ時ニ至テ新  
 葉枝ヲ茁シ榮養更始ノ候トナル  
 光ハ植物ヲ榮養スルニ欠クヘカラサルモノナリ  
 夜中或ハ暗暈ニ在ル氏上昇ノ汁ヨリ水素及酸素  
 ヲ發出セス却テ酸素ヲ收入シ炭酸ヲ輸出スルア

リ是以テ暫時ノ間光ヲ奪却スル氏ハ草木皆<sup>ヤシラト</sup>羸瘦  
 ス草木ノ特ニ綠色ニ富ミ人ノ眼目ヲ慰愉スルハ  
 全ク炭酸ノ功用ニシテ其黑色ヲ汁ノ黄色ト混和  
 スルガ故ナリ草木ハ光ニ欠乏シテ炭素ヲ含蓄セ  
 サレハ其綠色ヲ失ヒ皆死白色ノモノトナル死白  
 色トナルモノハ草木<sup>ルイフ</sup>羸瘦ノ徴ナリ草木ハ炭酸瓦  
 斯ヲ吐出スルガ故ニ衆草木ヲ布置スル室内ニ臍  
 眠スルハ甚危険ナリ炭酸瓦斯ハ植物ヲ惠利スレ  
 氏動物ニハ害アルモノナリ

動物論



寒度嚴烈ノ地ニアラサレハ地上處トシテ動物アラサルハナシ動物ハ植物ト同シク有機体ニシテ諸物ヲ化シ以テ自カラ榮養スルノ力アリ且居ヲ轉シ寒熱濕燥ノ利ヲ取り其欲スル所ヲ達スルノ権力アリ人ヲ此種族ノ長トス人皆鳥獸蟲魚ヲ見テ之ヲ知ラサルハナシ蓋シ此四者ハ千差萬別ノ形ヲ以テ日トシテ人ノ眼目ニ入ラサルハナシ或ハ其地ノ寒熱ニヨリ或ハ他ノ原因アリテ地上ノ各方ニ定類ノ動物アリテ群居シ各其分界ヲ踰ユルイナシ通常人ノ能ク知ルモ

ノ既ニ衆多ナレト別ニ顕微鏡ノ力ヲ藉ラサレハ眼ニ入り難キ無數ノ小蟲アリ斯ク衆多ナル動物皆生養ノ機周密精巧ナラサルハナシ縱令人ノ為有害無益ノモノニ見ユルモ或ハ形貌ヲ以テシ或ハ營生ノ状ヲ以テシ盡ク造化ノ睿哲良善ナルヲ徴セサルモノナシ動物ハ自カラ等級アリテ彼ハ此ヨリ卑キアリ百足ノ身幹無數ノ關節ヨリ成テ衆多ナル足アルハ帝同形機ノ積重スルモノニテ一二ノ機ヲ以テ一科ノ用ヲ達スルモノト比較シ等級遙ニ卑下スル



ヲ覺ヘン又動物中ニ唯一箇ノ胃囊ト食物ヲ攫取  
 スヘキ長足ノ具ルモノアリ造化此種ノ動物ヲ造  
 ルガ為工夫ヲ費ヤサ、ルイ明カナレハ他ノ精巧  
 アルモノト比較シ卑下ナルヘシ等級卑下スルモ  
 ノハ必ス下文ノ殊性アリ之ヲ新テ二片トナサハ  
 一片ノ肉活テ別蟲トナルアリ又幼稚ナル氏卵形  
 ナスモノアリ又一蟲ニシテ雌雄ヲ兼ルモノア  
 リ又父母ノ養ヲ受ケスシテ生長スルモノアリ又  
 之ヲ切斷スルノ後各片久シク生ヲ保ツモノアリ  
 又一股ヲ割ケハ從テ新股ヲ生スルモノアリ此皆

等級卑下スルノ徴ナリ又卑下ナル動物ハ大概海  
 中ニ居リ腮ヲ以テ呼吸ノ用ヲ達シ且諸機ノ用ヲ  
 兼ヌ動物ハ草木ニ食ムモノアリ又互ニ相食ムモ  
 ノアリ凡ソ他ノ餌食ト為テ死スルモノハ其生數  
 極テ多シ動物ノ世ニ生ルヤ必ス適宜ノ食餌アリ  
 又之ヲ咀嚼吞噬スヘキ齒牙ト諸般ノ機器備具ス  
 ルアリ智愚ノ差アルガ如キハ唯願欲ノ多少ニ由  
 テ殊ナリ

クヴール氏佛國モントベリ及他ノ博物學士動物  
 界ヲ大小似同ニ從テ區分シ先々全界ヲ分テ四部ト



ナセリ線状部、軟肉部、關節部、脊骨部是ナリ第一ヲ  
最<sup>モ</sup>下等ノモノトシ第四ヲ最<sup>モ</sup>上等ノモノトス各部  
又其殊異アルニ從ヒ分レテ類トナリ尚些少ノ殊  
異アルヨリ又分レテ族トナリ又分レテ種トナル  
既ニ種トナルモノハ父子相承テ萬世不易ノ性ア  
リ

人種論及綱鑑

人ハ動物中ノ特種ニシテ聰明ト良善トヲ以テ萬  
物ノ上ニ擢拔ス然レモ天下ノ民皆同一種ナラス  
世ニ正史アリテ以來白哲ノ人全歐羅巴、亞細亞ノ

西方及亞非利加ノ北地ニ居リ之ヲ「コーカシヤ」種  
トス蓋シ黑海ト裏海トノ間ニ在ル「コーカシス」山  
中ヲ此種始誕ノ地トスレハナリ此種ハ特ニ聰明  
ニシテ容貌文雅ナリ又「モンゴリヤ」雜種アリ皮色  
微黃亞細亞ノ餘壤ニ居ル此種ハ聰明神氣稍第一  
種ニ及ハス第三種ヲ「子グロ」雜種ト云フ膚色漆黑  
ニシテ容貌野鄙ナリ亞非利加強半ノ人民是ナリ  
第四種ヲ「亞米利加土人種」トス「メ」種トス「人種」ヲ加  
此種ノ人四百年前「閣龍氏」始テ此州土ヲ發見シタ  
ル時マテハ全ク州土ニ「捷」レリ膚色銅ノ如ク其性



魯ナリ其風倍凶暴ナリ  
白哲ノ人種ハ其數一ナラス然レ氏皆大ニ文學ヲ  
修メ世ヲ追テ聰明ニ進メリ  
埃及亞拉比亞比耳西亞墨曾保大美亞叙利亞及希  
臘人先ツ文學技術政科ニ進メリ紀元前一千九百年  
ノ頃ニ亞拉比亞ニ牧羊兒アブラハムナルモノア  
リテ其子孫世ニ繁殖シ延テ以西列人或ハ之ヲ  
ニ及テ歴史興亡ノ状史冊ニ較然タリ希臘人ハ特  
ニ聰明睿知世ニ卓絶セリ其遺書ヲ讀ミ其餘業ヲ  
見テ文學技術ノ盛ナルヲ知ルヘシ百世ノ後未曾

テ之ニ過ルモノアラス希臘衰ヘテ羅馬興ル羅馬  
ハ勇武ヲ以テ數百年間諸蠻ヲ鎮壓セリ紀元前十  
年ノ頃ヨリ紀元後五百年代マテハ地中海以北ノ  
諸邦唯希臘及羅馬ヲ以テ凶暴ノ域ヲ脱シタルモ  
ノトス其衰ルヤ復凶暴ノ舊態ニ沈メリ紀元六百  
年前ノ世ヲ古代ト稱シ其人ヲ古人ト云フ此時ヨ  
リ千三百年代マテノ間ヲ中古ト云フ此時代ニハ  
人民稍凶暴ナリ千四百年代ニ至リ文化漸ク蘇復  
シ古人ノ文學ニ藉テ修練琢磨ノ意匠ヲ助ケ格物  
窮理ノ學業ヲ修メリ又此時ヨリ法教ノ德澤人ニ



及ヘリ歐羅巴諸邦ノ中以イタリヤ太利イスパニヤ伊斯把牙フランス佛蘭西ドイツ日  
 耳漫及イギリス不列顛大英ニ最モ此道ニ進ミ古人ノ文教  
 亦茲ニ至ラサルヘシ近代此諸邦ヨリ白哲ノ人其  
 文學技術政科ノ意匠ヲ以テアメリカ亞米利加ノ東岸ニ至  
 レリ日ヲ經スシテ全州ニ占據スル一推テ知ルヘ  
 シ  
 白哲ノ人斯ク地上ノ一方ニ開化ヲ遂ケタレ氏當  
 日ニ至リ文學曩祖ノ地ハ再ヒ凶暴ノ域ニ埋没シ  
 有色膚ノ人ト異ナル一ナシエジプト埃及アラビヤ亞拉比亞北耳西  
 亞墨曾保大メソポタミヤ美亞叙利亞叙利亞ノ如キハ文學法教ノ曩祖

ナレ氏今日ニ至テ殆寥々トシテ見ルヘキモノナ  
 シ唯絶壁ノ遺構ヲ見テ其盛大ノ時ヲ証スルニ足  
 ルノミ  
 專ラ人ニ關スル諸學科中ニ人類萬種各相殊異ス  
 ル所以ノモノヲ踪跡スルヲ性理誌ト云フ國境人  
 口性質風俗ヲ記載スルモノヲ政科地誌ト云フ諸  
 邦ノ文字言語ヲ迹スルヲ詳字學ト云フ古今ノ興  
 廢ヲ迹スルヲ綱鑑ト云フ名人高士一世ノ行迹ヲ  
 記スルモノヲ姓學ト云フ物産分与費耗ノ法ヲ論  
 スルモノヲ經濟學ト云フ



右ノ諸學科ハ皆大重要ノモノニシテ人各之ヲ知  
 ラサルヘカラス然レモ今爰ニ二別科アリ最切用  
 ノモノナリ身体ヲ健康ニシ躬行ヲ節制スルニ當  
 テ欠クヘカラサルモノナリ人身ニ關スルモノヲ  
 人身學ト云ヒ人ノ人タル所以ノ道ヲ論スルモノ  
 ヲ人道學ト云フ

人体論

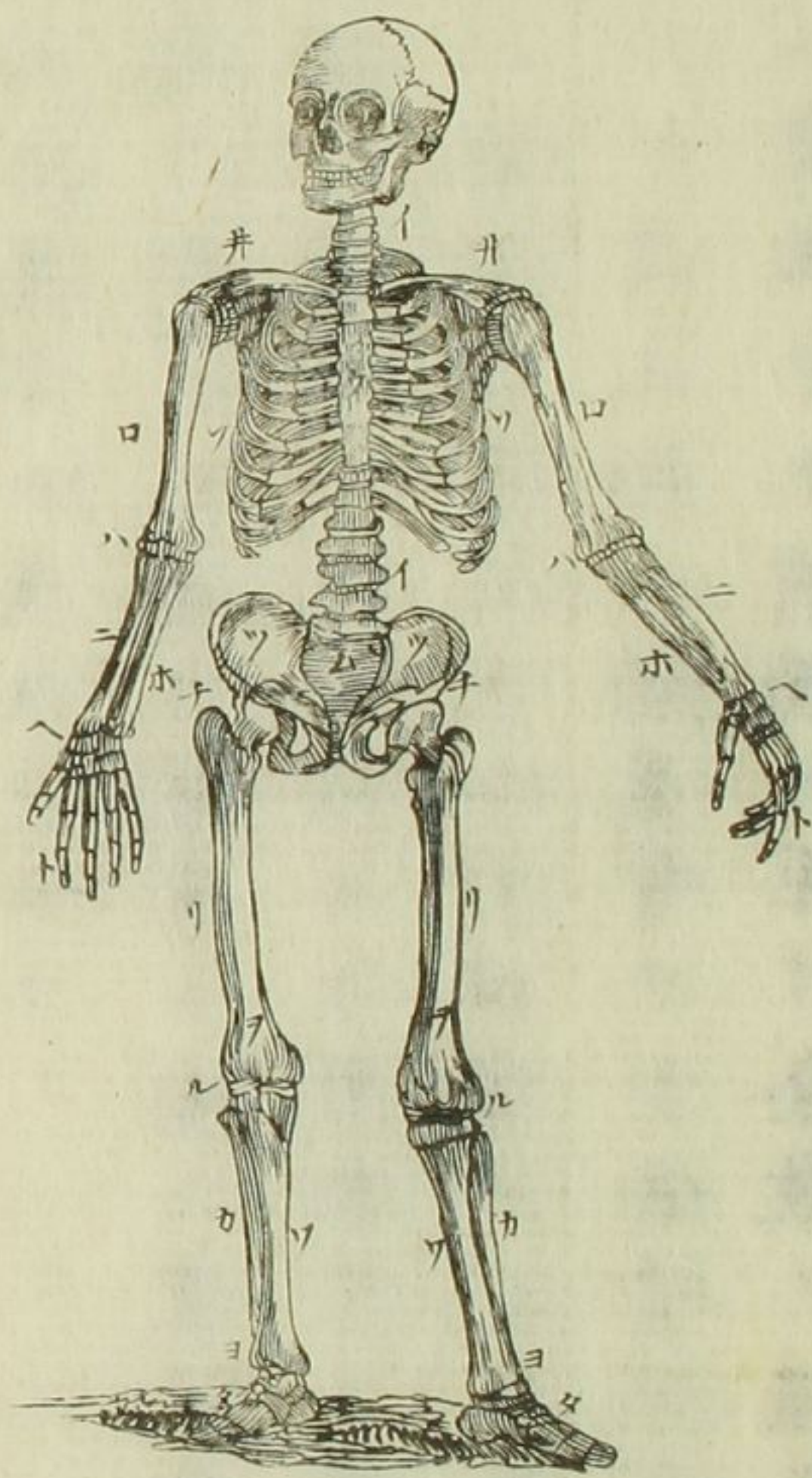
人ノ外形ハ言ヲ待タスシテ衆人ノ知ル所ナリ總  
 テ人ハ身長五六尺ニシテ其容貌大有力ノモノニ  
 アラザレモ正立シテ萬物ノ長タル威嚴ヲ示セリ

人ハ幼稚ナルノ間禽獸ヨリ久シ二十歳以上ニ至  
 ラサレハ全ク成立セス此際ヤ幸ニシテ病ニ羅リ  
 死亡スルヲナキヲ得ハ尔後三十年間ヲ壯年ノ時  
 トス又尔後二十年ヲ長成ノ期トシ七十歳ヲ超ユ  
 ルハ老年ニ至ルト云フ

〔全体ノ骨〕 人体ハ骸骨ト唱ヘ来ル骨架上ニ成レ

リ次ノ圖解ニ之ヲ示セリ骨架中ニ最重要ナルモ  
 ノハ脊骨<sup>ニ</sup>ナリ二十四骨ヲ以テ成ル一條ノ骨  
 ニシテ其上端ニ<sup>ニ</sup>腦蓋骨<sup>ニ</sup>アリ<sup>ニ</sup>肋骨<sup>ニ</sup>ハ脊骨ヨリ  
 出テ彎曲シテ前面ニ至リ全數ノ強半胸骨ト云ヘ





ル骨中ニ會

セリ鎖骨

肩ニ至リ伏

臂ノ始トナ

ル臂ハ上臂

及正肘骨

及正肘骨

及正肘骨

及正肘骨

及正肘骨

及正肘骨

及正肘骨

及正肘骨

及正肘骨

及正肘骨

及正肘骨

及正肘骨

及正肘骨

及正肘骨

及正肘骨

及正肘骨

及正肘骨

及正肘骨

及正肘骨

及正肘骨

及正肘骨

及正肘骨

及正肘骨

及正肘骨

及正肘骨

骨ラヂユス回輔肘骨ウ及正肘骨ウヨリ成レリ輔肘骨及正  
 肘骨ラヂユスハ肘ウト唱ウフル交節ニテ上臂骨ト連合ス正  
 肘骨ノ端末ニ手掌ノ骨アリ此骨ハ手骨掌骨ウト  
 及指骨ウトヨリ成レリ脊骨ハ薦骨ウ上ニ居ル薦骨ウ

ハ身幹ノ基ヲ成セルニ髓骨ウノ間ニ挾マレリ  
 髓骨ヨリ脚ノ上部ヲ成セル大腿骨ウノ出ルア  
 リ膝ニハ膝蓋骨ウト云ヘル局外ノ小骨アリ膝ハ  
 倍ニ脚骨ト唱ウフル小腿骨ウノ始トナル小腿骨ハ  
 輔腿骨ウト唱ウフル小平行骨ノ杖持スルアリ輔腿  
 骨ハ小腿骨ト膝交節ニテハ連合セサレ氏腿足交  
 節ニ至テ結合ス小腿骨ハ腿足交節ニテ足背ウト  
 連ル足背ハ若干ノ小骨ヨリ合成シ全体ノ基トナ  
 ルモノナリ人骨ノ總數二百四十八枚アリテ皆各  
 其使用ニ適スヘク造成セリ骨ハ堅質白色ノモノ

博物新編補遺 卷之十一



ニシテ石灰ト少量ノ動物質ヨリ合成セリ  
 此骨架上ニ筋肉皮毛ノ排列スルアリ骨架ハ人ノ  
 見ルヘキ所ナラ子ハ眼ヲ喜ハシムルノ色ナシ  
 全体ノ筋 人体ノ柔軟ナル部分ハ大概筋ヨリ成  
 レリ全筋ヲ分テ四百餘把トシ各之ヲ筋ト云フ其  
 大小強弱皆其用ニ從テ変ス筋ハ柔軟ナル赤纖維  
 ヲ束子タルモノニテ其形筒子ノ如ク其方嚮互ニ  
 相平行ス手足ニハ運動ノ為主要ナル筋アリテ其  
 兩端交節ヲ跨テ骨ト連ル故ニ精神手足ヲ動サン  
 ト欲スル代命ヲ意識神經ニ傳フレハ此筋膨脹縮

収シ上下左右唯意ノ欲スル所ニ從フ斯ノ如ク体  
 ノ外邊ニ在ル諸筋ハ皆精神ノ主宰ヲ受クレ氏内  
 部ニハ血液循環飲食消化ノ為必用ナル諸筋アリ  
 此諸筋ノ職務ハ心身ヲ勞スルノ間モ睡眠ノ中ニ  
 モ休暇スヘカラサルモノナレハ意思ニ從ハス之  
 ヲ名テ不隨意筋ト云フ  
 神經全系 イニガオオニテシリーモシク 人体ノ全面ニ神經ト云ヘル細線アリ  
 テ之ヲ纏ヘリ神經ハ腦髓及脊髓ト通シ五官ノ報  
 告ヲ精神ニ輸シ精神ノ意思ヲ諸筋ニ傳フルノ用  
 ヲ為セリ腦髓脊髓及諸神經ヲ合セ稱シテ神經全

傳勿折編補遺

卷之十一

十五



系ト云フ蓋シ此三者ハ明ニ同一ノ職務ヲ為セリ  
 神經ハ平行スル細微ノ白色纖維ニシテ各神經莖  
 ノ中ニ圍マレリ且ツ分レテ二部トナレリ一ハ意識  
 ノ用ヲ司リ二ハ運化ノ用ヲ為セリ

腦髓ハ腦腔ニ在ル白色ニシテ柔軟ナル塊肉ナリ  
 其質纖維狀ノモノニシテ夥ク血管ノ具ハルアリ

又腦髓ハ精神ノ機ナレハ重要言フヘカラス故ニ  
 之ヲ護ルニ至ラサル所ナシ腦蓋骨ハ最堅實ノ穹

窿ニシテ數骨ヨリナレリ其啣接ノ所ハ犬牙シテ  
 相合セリ斯ク互ニ啣接スルモノハ萬一此部ニ傷

害アルモ唯一部ノ害ニ止テ他部へ波及スルノ患

ナカラシメント欲スレハナリ又腦髓ハ主塊ヲ後  
 部ノ小片ト分テ二枚トナレリ此小片ヲ名テ小腦

ト云フ小腦ハ脊髓孔ヲ下ル所ノ長繩ト連ル此長  
 繩ヲ脊髓ト云フ脊髓ハ針刺ノ如キ細小ノ害ヲ受

クルモ死ヲ來スヘシ  
 五官肺臟及胃腑ト通スル神經ハ腦ヨリ出ツ手足

ヲ動カスモノハ脊髓ヨリ來レリ又交感神經ト唱  
 フル別派ノ神經アリ直ニ腦及脊髓ト連合セス胸

部ニ在テ不隨意筋ニ動カラ与フルモノトス



両間萬物ノ感覺ハ五官ヲ歴テ意識機ニ通ス  
 視官 物ノ方圓黑白ヲ知ルハ眼官ノ功用ナリ眼  
 ノ外形ハ人ノ能ク知ル所ナリ眼球ニ透明ナル膜  
 アリテ瞳孔ヲ除クノ外全ク前面ヲ蔽ヘリ萬像此  
 孔ニ入テ内部ニ至レハ眼球ノ後方ニ瞳孔ト相向  
 テ網膜ト唱フル網状ノ膜アリテ之ヲ収ム此膜ハ  
 鏡面ノ如ク萬像ヲ映スノカアリ物ノ大サハ暗球ノ  
 為ニ減小サル、モノナリ網膜ハ展開スル神經ニ  
 シテ球後ニ収聚シ神經ノ常形ト為リ腦裏ニ通セ  
 リ

耳官 聲音ヲ聴クハ鼓膜ト唱フル膜上ニ展開ス  
 ル神經ノ功用ナリ鼓膜ハ鼓ノ皮アルガ如ク耳竅  
 ヲ横絶スルモノナリ聲音ハ空氣揺動シテ鼓膜ヲ  
 撼スヨリ生ス猶砲ヲ放ツキ窓戸之ガ為振揺スル  
 カ如シ空氣鼓膜ヲ撼セハ神經逐一其感得ヲ腦裏  
 ニ報告ス又鼓膜ト連合スル許多ノ小空竅アリ此  
 空竅ハ聲音ヲ及響シ神經ノ腔裏ニ逶輸スル感得  
 ヲ嵩ムルモノトス  
 味官 味ヲ知ルハ舌ヲ活面ニ展開スル神經功用  
 ナリ舌膜ノ上皮ニ無數ノ小孔アルハ蓋シ食物ヲ



シテ直ニ神經ト觸レシメンガ為メナリ

鼻官 子ルグ 鼻ノ功用ハ專ラ鼻孔内ノ皮裏ニアル 子ルグ 神經ニ屬ス

觸官

觸官ハ体ノ全面ニ布散スル 子ルグ 神經ニ屬ス然

レ氏指端ノ 子ルグ 神經最無数ニシテ細微ナリ蓋シ觸覺

功用ノ主機ナルガ故ナリ

全体ノ血液 人ノ全体ハ骨部ヲ殘サス皆血液ト

唱フル赤色ノ液アリテ竄入ス ブル 血液ハ血管ニ藉テ

循環ス ブル 血管ノ端末極テ細微ナルハ憶度スヘカラ

ス血液ヲ全体ニ循環セシムルノ機及生カヲ扶持

スルニ欠クヘカラサル榮養ト空氣トヲ血液ニ給

与スルノ機ハ皆体ノ上部肋骨ノ空裏ニ居ル此空

處ヲ胸腔ト云フ ナスト 胸腔ノ下ニ呼吸ヲ追テ上下スル

地平ノ筋アリテ体ヲ中断シ以テ上下ノ分界ヲナ

スアリ之ヲ名テ ヂヤフラム 横隔膜ト云フ又薄膜ノ胸腔ヲ中

分シ左右ニ別ツアリ此膜ノ後部ハ二層トナリテ

食管ノ胃腑ト通スルノ路ヲナス左胸腔ニハ心及

左肺アリ右胸腔ハ全ク右肺ノ占據トナル ハト 心ハ強

固ナル筋状ノ囊ニシテ其側面ノ厚サ一イン ト 五ノ四

分一ヨリ半イン ト 五ニ至ル環状ノ長肉纖維ヨリ成



レリ心ノ功用ハ唧筒ノ水ヲ偏テ射出セシムルガ  
 如ク血ヲ偏テ体ノ諸血管へ輸送スルモノナリ猶  
 管ヲ以テ水ヲ都邑ニ送ルキ水櫃ノ之ガ原ヲナス  
 ガ如シ心ハ分レテ二室トナリ分界極テ強固ナリ  
 各室又分レテ二房トナリ上房オウリス下房ト云フ故ニ  
 右室ニ上下二房アリ左室亦上下二房アリ左下房  
 収縮シテ血液ヲ總尿管ニ輸リ遂ニ体ノ各部ニ至  
 ル斯ク分配スル所ノ血液復廻血管ト云ヘル血管  
 ニ集リ心ノ右上房ニ歸リ又遷テ右下房ニ入ル此  
 時ニ至テ血液既ニ体ノ全部ヲ一周セリ此ヲ名テ

第一行循環ト云フ血液復右下房ヲ出テ肺動脈ヲ  
 登テ肺裏ニ入リ環行シテ肺廻血管ニ集リ心ノ左  
 上房ニ輸ラレ遂ニ復出テ最始輸出セシ右下房ニ  
 入り再々体ノ各部ニ分配ス斯ク肺ニ入テ廻行スル  
 ノ間ヲ第二行循環ト云フ心ヨリ血液ヲ輸出スル  
 ノ働ハ手足ニ在テ尚覺知スヘシ之ヲ名テ脈ト云  
 フ全ク成立スル人ノ全血量ヲ算定スルニ二十四  
 ホントヨリ三十ホントニ至ルアリ  
 肺ハ呼吸ノ機ニシテ彈カアル輕体ナリ其實疎鬆  
 ニシテ實ニ氣管氣胞及血管ノ合同スルモノナリ



口ヨリ吸入スル所ノ空氣ハ氣管ト唱フル大管ニ  
 入ル氣管ハ胸腔ノ上部ニテ分レテ二枝トナリ各  
 兩肺ニ入り又分レテ無數ノ小枝トナリ肺ノ全面  
 ニ展開ス此氣管ノ端末ハ眼ノ能ク見ルヘカラサ  
 ル細管ト為テ血管ノ端末極テ微細ナルモノト合  
 ヒ以テ肺ノ血液循環ヲ杖クル所以ノ職務ヲ遂ケ  
 リ血液ノ人ヲ榮養活發ナラシムルヤ酸素之本原  
 ノ一トナレリ今此血液第一行循環ヲ以テ全体ニ  
 榮養活發ノカヲ与ヘ第二行循環ヲ以テ肺裏ニ歸  
 リ氣管ト接シ大氣中ノ酸素ヲ引キ直ニ心裏ニ歸

リ其吸収セル酸素ヲ輸出ス

消化系

横隔膜ノ下ニ居ル生養機ハ主ニ胃ト腸

トヲ以テ成レリ食餌食管ヲ下リテ胃ニ至ル

液ノ消化ヲ受ク胃液ハ疾アルニアラサレハ最堅

實ナル食餌ヲモ消化スルノカアリ消化作用トハ

胃液ノ食餌ヲ溶解スルノ性アルニ藉テ糜ト唱フ

ル白色ノ稀粥状ノモノト為スタ云フ既ニ糜トナ

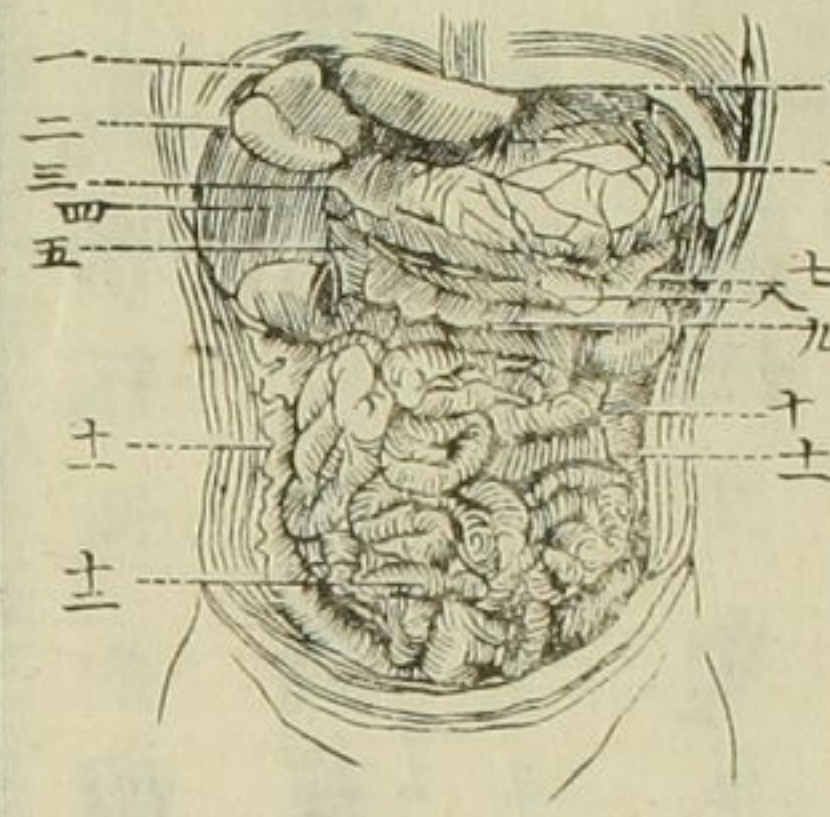
ルモノハ幽門ト云ヘル下孔ヨリ胃中ヲ出ツ幽門

ハ胃液ノ為消化セサルモノヲ拒却スルノ権カア

リ糜ハ膽液ト名クル液ヲ膽ヨリ受ケ又脾液ト唱



フル液ヲ臍ヨリ得テ化シテ乳糜トナル既ニ乳糜  
 トナルモノハ乳糜脉ト唱フル無數ノ細管ニ吸収  
 サレ上テ乳糜管ト唱フル長管ヲ登テ胸腔ニ至リ  
 終ニ頸ノ迴血管ニ入り全ク肺中ノ血液ト混同ス  
 胃液ノ為ニ消化ヲ受ケサル渣滓ハ腸ヲ登テ傳出  
 ス腸ノ形ハ胃ノ如キ大囊ニアラス直径一「イン」左



ヨリ「一」横隔膜 二膽腑 三胃ノ  
 幽門 四肝ノ右葉 五十二指腸  
 六胃ノ大端 七脾臓 八腸ノ  
 九臍 十空腸 十一結腸  
 肥網 九臍 十空腸 十一結腸

十二迴腸ニ「イン」チマテノ溝路ナリ解部家之ヲ  
 分テ六部トス十二指腸、空腸、迴腸、盲腸、結腸、直腸ト  
 云フ直腸ハ諸腸ノ端末ナリ

分泌及排泄系 血液ハ上文ニ記載セル作用ヲ以  
 テ食餌ノ有用分ヲ得テ人体ヲ榮養スルノ外又分  
 泌排泄ノ要務ヲ為セリ分泌ノ主機ハ肝臍及嚙腺  
 涙腺ナリ肝ハ大ナル暗色軟質ノ器ニシテ腹腔ノ  
 上邊右側ノ地ニ居ル又肝ハ動脈ノ竈入スルノミ  
 ナラス且足部ヨリ心裏ニ血液ヲ輸送スル大静脈  
 ノ竈入スルアリ膽液ヲ分泌スルハ動脈ノ所為ナ



ルヤ或ハ静脈ノ所為ナルヤ未審カナラス臍ハ其  
形犬舌ニ類似シ胃ト密接スル細小ノ機ナリ臍ノ  
用ハ食餌ヲ化シテ乳糜トナスヲ助クル諸液ヲ分  
泌スルニアリ唾腺ハ口ノ周邊ニ在テ唾ヲ流出シ  
以テ食物ノ咀嚼ヲ助ケ涙腺ハ眼窠ノ内眦ニ居リ  
常ニ眼球ヲ滋潤ス此滋潤ナキハ眼球動キ難ク  
加之太陽及空氣ノ為屢傷害ヲ受ルイアラシ此他  
許多ノ分泌機アリテ体ノ諸部ヲ滋潤セリ例ハハ  
氣管ニ氣管腺アリ腸ニ粘液膜腺アリ又皮下ニ脂  
腺アリテ人体ヲ保護スル脂肪ヲ分泌スルノ類ナ

リ斯ル分泌機中ニ液アルヲ見レ何等ノ分析作  
用ヲ以テ生スルモノナルヤ未審カナラス  
排泄ノ要機ハ腎臟皮膚及腸ナリ腸ハ只食餌ノ渣  
滓ヲ輸出スルノ溝路ナルニ腎臟及皮膚ノ如キハ  
血液ノ渣滓ヲ分泌シ又之ヲ排泄スルノ用アリ皮  
膚ノ職務ハ汗ヲ輸出スルニ在リ  
**養生** 身体健康ハ地上萬福ノ長ニシテ健康トハ  
全体ノ諸機ヲ造化設為ノ道ニ使用シ各其功用ヲ  
奏セシムルヲ云フ疾ハ之ニ反シテ諸機ニ傷害ア  
ルヨリ始ル或ハ其功用ヲ錯ルヨリ發ス老年ニ至



ラスシテ死亡スルモノハ生来ノ虚弱ニアラサレハ必ス不時ノ傷害儻クハ功用ノ失常スルモノアルニ坐ス

第一人体ノ本質ニ傷害ナキヲ欲セハ先<sup>ッ</sup>造化妙用ノ法則ヲ知ルイ大緊要ナリ火ノ焚焦シ熱湯ノ糜爛シ墜落ノ重傷ヲ起シ利又ノ肉ヲ傷テ劇痛ヲ覺ヘシムルハ幼童ノ能ク知ル所ナレハ人唯之ヲ知ルヲ以テ自カラ足レリトセス又宜シク萬物ノ榮枯シ四時ノ来往スル所以ノ法則ヲ博識周知スヘシ蓋シ此法則大概造化ノ意匠ニ從ヒ人ヲ惠利ス

ル所以ノモノナルニ屢其常ヲ失ヒ人ヲ害シ人ヲ損フイナキニアラス故ニ人トシテ之ヲ防ク所以ノ道ヲ慮ラサルヲ得ンヤ

第二人体ノ功用失常スルヨリ生スル所ノ疾病ヲ防カント欲セハ先<sup>ッ</sup>功用ノ法則ヲ知ラサルヘカラス特ニ全体ノ有生機ヲシテ各其功用ヲ遂ケ易カラシムルニ緊要ナルモノ四項アリ空氣食物運動清潔是ナリ此四者各其宜ヲ得サレハ健康保テ難シ  
空氣酸素ヲ含蓄スルイ全量五分一二至ル氏最人



ヲ榮養スルニ宜シ外氣流通シ難キ房室ニ居ルモ  
 ノハ時ヲ移サス酸素ヲ消耗ス古語ニ云ヘルアリ  
 密室中ニ呼吸スルハ一呼一吸尚健康ニ害アリト  
 故ニ寢食ノ室ハ高シテ且大ナラニテ要ス然ラ  
 サレハ外氣常ニ流通セス寺院學校製造局及諸般  
 衆人集會ノ室ハ勉テ外氣ヲ流通センイテ欲ス戸  
 外ノ空氣ハ人体健康ニ最惠利アリトス是ニ由テ  
 考フレハ居室ノ入ハ日毎ニ巨量ノ空氣ヲ費サ、  
 ルヲ得ス

第三人体健康ノ為必要ナルハ良善食物ナリ無數

食物ノ中麵類、干肉、漬肉、臍物、及果實ノ如キハ消化  
 シ易カラス特ニ榛子、巴且杏、風栗ノ如キ核アルノ  
 果實ハ最<sup>モ</sup>不消化ニシテ動<sup>モ</sup>スレハ胃ヲ害シ之<sup>カ</sup>為<sup>レ</sup>疾  
 痛ヲ生スルアレハ避テ食フイナカレ之ヲ食フイ  
 アルモ少量ニ止ルヘシ又常ニ飲用スル所ノ飲料  
 中ニテモ葡萄酒、火酒、杜松子酒、麥酒ノ如キ多量ノ  
 亞爾箇兒<sup>ト</sup>又濃酒ヲ含蓄スルモノハ消化ニ害アリ  
 飲料及肉類ハ精選ヲ經ルモ尚過量ニ之ヲ用ユヘ  
 カラス若シ嗜欲ニ欺カレ過量ノ飲食ヲナス氏ハ  
 胃之<sup>カ</sup>為<sup>レ</sup>鬱滯困悶シ病害ヲ来ス一少ナカラス



斯ク人体榮養ノ為必用ナル諸品ヲ資送シ傍血液  
 ラシテ其功用ヲ遂ケシムルノ術ヲ尽サ、ルヘカ  
 ラス  
 此術ヲ尽スノ方ハ適宜ノ運動ヲ重要トス思フニ  
 供給ヲ要スルハ消耗ヲ遂ケシメンガ為ナリ今人  
 爰ニ飲食シ其体ニ得ル所ノモノアラハ分泌排泄  
 ノ為、体ヲ出ルモノ亦其量ヲ同シ以テ新陳常ニ交  
 替スルノ功用成ル然ルニ怠テ身体ヲ運動セサル  
 氏ハ此功用亦自ラ衰弱ス故ニ精神ヲ挑撥シ身体  
 ヲ運動スルハ健康ヲ保持スル所以ノ要事ナリ人

已カ好ム所ニ從テ身体ヲ使用セハ血液之為適宜ニ  
 消耗シ新ニ榮養ヲ得ント欲ス此ニ由テ見ル氏動  
 物營生ノ法得テ知ルヘシ之ヲ要スルニ天ノ人ヲ  
 生スルヤ勸作ノ為ナリ古語ニ云フアリ食フ所ハ  
 粟ハ化シテ額上ノ汗トナスヘシト故ニ人生テ働  
 作諸機ノ備具スルアリ此ヲ適宜ニ使用スルハ乃  
 造化ノ欲スル所ニテ健康亦待ツヘシ之ヲ如何ソ  
 怠テ身体ヲ動サス以テ羸疾ヲ招クヘケンヤ運動  
 ニ慢リ疾病ヲ生スルモノハ專ラ貴人ノ中ニ在リ  
 特ニ婦人ニ甚シ終日働作スルノ人ト虽氏亦同因



ヨリ疾ヲ受ケサルニアラス凡ソ運動不足ナルニ  
 加ヘ純粹空氣ヲ呼吸スルイ少キハ健康ニ害アル  
 一最甚シ又心身ヲ勞スルイ其分ヲ過ルイナカレ  
 其分ヲ過レハ往々死亡ニ至ル  
 人体健康ノ為緊要ナル第四項ハ清潔ナリ半身浴  
 全身浴及衣裳ヲ屢次变换スレハ皮膚ノ排泄ヲ勸  
 ムルニ必要ナリ今世間ニ清潔ノ必要ヲ知ラサル  
 ト養生ノ法ヲ顧ミサルトヨリ適度ノ浴身ヲ怠ル  
 モノアリ斯ル人ハ健康日奈テ疾病月臻ル且人之  
 ヲ見テ穢褻不快ノ思ヲ為サン衣裳ノ清潔ハ貴賤

皆同シク緊要ナリ家室ハ乾燥シ掃除シ又能ク空  
 氣ノ流通アラントイヲ要ス身体家室既ニ清潔ナル  
 氏ハ街衢都邑ノ如キモ亦宜ク日毎ニ洒掃シ腐物  
 死水ヲシテ近傍ニ集マラシムルイ勿レ幼年ノ時  
 ヨリ身ヲ清潔スルニ習慣セシムルイ緊要ナリ既  
 ニ習慣トナル氏ハ煩勞ナルヲ覺ヘスシテ之ヲ怠  
 ルモノ甚少シ

人性論

上文既ニ腦ハ精神ノ宅ニシテ五官ノ府ナルヲ記  
 セリ然レ氏腦ハ即テ精神ナリト云フニ非ラス帝



造化斯ル有形ノ機ヲ設ケ精神ノ用ヲ任スルノミ  
 精神ハ乃<sup>チ</sup>靈妙無形ニシテ身死スルノ後モ永遠消  
 滅スルノ期ナシ  
 精神ハ譬ヘハ鏡ノ如シ外間見聞觸知スル所ノモ  
 ノ皆五官ヲ經テ此鏡面ニ映シ以テ千差萬別ノ形  
 状ヲ現ハス然レ<sup>レ</sup>此一度此鏡面ニ映スルモノハ之  
 ヲ拭フモ磨滅セス又此鏡面ハ形像ナキモノヲ映  
 シ得テ地上曾テ比類ナキ美麗ノモノニ見ヘシム  
 ルノ力アリ又人ノ事物ニ感シ<sup>カ</sup>之ヲ為情思ヲ動スハ  
 此鏡アルガ故ナリ

斯ク精神ハ單純無瑕ナルガ如クナレ<sup>レ</sup>此之ヲ分テ  
 ハ各項ノ能力ト為ル今此能力別レテ人ニ在ルモ  
 ノ強弱銳鈍ノ殊ナルヨリ同シク命ヲ天ニ稟ケ同  
 シク此世ニ生ル、モ自カラ知愚ノ差ナルアリ能  
 カノ數衆多ナレ<sup>レ</sup>此先<sup>ツ</sup>之ヲ分テ二項ト為シ一ヲ良  
 知ト云ヒ二ヲ良能ト云フ一ハ專ラ知識ニ屬シ二  
 ハ全ク行為ニ關ス  
 幼年ノ時ヨリ精神中ニ發生スル所ノ良知ハ專ラ  
 知識ヲ得ント為ルノ諸能力ニシテ之ヲ汎稱シ格  
 物カト云フ乃<sup>チ</sup>言語ヲ習熟スルノ力ナリ物ノ方圓



大小輕重、黑白ヲ察スルノカナリ又物ノ上下、多少、  
秩序、動靜、遲速、音聲ヲ審ニスルノカナリ音聲ノ序  
ハ樂ノ由テ興ル所ナリ  
幼年ノ間ニハ大ニ發生セサル所ノ良知ヲ追想カ  
ト云フ其數ニアリ一ヲ比較カト云フ蓋シ其用各  
項事物ノ思念ヲ集メ其似同ヲ較フルニ在リ詩人、  
講師、學者ノ如キハ此力ヲ習熟シ平常泰越ノ思ヲ  
為スモノ互ニ相關涉シ全ク相離レサルノ趣ヲ示  
シ以テ人ノ歡樂ヲ極ム各項ノ思念一時ニ發動シ  
皆其中ヲ得ル氏ハ正詩ノ興ル所以ナリ一ハ以テ

發揚シニハ以テ野鄙ナル氏遊戯ノ文ヲ生ヌ  
追想カノ第二ヲ因縁カト云フ乃因縁ト果報トヲ  
審ニスルノカナリ此力ハ良知中ノ最貴ナルモノ  
ニテ人ノ禽獸ト異ナル所以ノモノトス人能ク此  
力ヲ稟受シテ因縁中ニ果報ヲ踪子禍ヲ轉シテ福  
ト為スヲ得ル譬ヘハ人アリ自己ノ行狀禍ヲ招ク  
可キヲ察知セハ之ヲ避ケテ其果報ヲ遁ル可ケン  
此力ヲ究メハ格物窮理ノ師トナル可ク又能ク危  
急存亡ノ秋ニ逢テ泰然之ニ處シテ過失ナキヲ得  
ヘケン



良能トハ人情ヲ發動スル精神功用ヲ云フモノナ  
 リ此目中ニ良心私情ノ分別アリ良心アルモハハ  
 善行ヲ勵ミ私心アルモノハ獨リ自己ノ歡樂利害  
 ヲ計較ス  
 良心中ノ第一目ヲ尊敬トス己ニ賢ナルモノヲ尊  
 フラ云フ次ヲ施惠ト云フ我カラ尽シテ世人ノ歡  
 樂ヲ推較シ己ヲ害スルモノヲ忘ル、ヲ云フ次ヲ  
 公義トス能ク世人ヲ約シテ正道ヲ行カシメ其不  
 正ヲ悔ヒシムルヲ云フ公義ヲ秉ルモノハ他人ノ  
 通義ヲ侵ス、アルモ後日痛ク自訟メテ其惡ヲ改

ム可ケン  
 良能ノ第二類ハ前件ヨリ發揚少シ然レ氏人情ヲ  
 樂シメ愉快ヲ助ケ世務ニ應セシムルモノナリ其  
 一ヲ剛毅ト云フ危難ニ臨ミ恒心アルヲ云フ二ヲ  
 希望ト云フ憂愁ヲ忍テ後福ヲ樂ムヲ云フ三ヲ  
 異ト云フ怪物奇人珍事等ヲ熟察スルヲ云フ四ヲ  
 好美ト云フ天然人工ノ美物ヲ尚フヲ云フ五ヲ戲笑  
 ト云フ奇物ヲ樂ミ滑稽ヲ愛シ戲謔ヲ好ムヲ云フ  
 六ヲ慕尚ト云フ人ノ容貌性質行為ヲ學フヲ云フ  
 第三良能ハ一等ヲ下ルモノニテ分テ三科トス第



一ヲ自矜トテ自己ヲ敬尊スルヲ云フ第二ヲ好譽  
トテ人ノ己ヲ頌美セン一ヲ欲スルヲ云フ第三ヲ  
謹慎トテ禍害ニ備フルヲ云フ  
良能中ノ最終ニシテ最下ナルモノ數項アリ生ヲ  
惜ムノ性アリ食ヲ嗜ムノ性アリ色ヲ好ムノ性ア  
リ子ヲ慈ムノ性アリ友ヲ親ムノ性アリ居ヲ選ム  
ノ性アリ又敵對ノ性アリ暴怒敗事ノ性アリ得ヲ  
欲スルノ性アリ好テ心身ヲ勞スルノ性アリ意ヲ  
一事ニ專ラニスルノ性アリ  
良知ノ動テ用ヲ為スヤ自カラ法則アリ其目各殊

ナリ人常ニ精神中ニ發動スル所ノ思念ヲ停メ專  
ラ之ヲ目前事物ニ注射スルアリ之ヲ注意ト云フ  
既ニ注意スル氏ハ隨テ之ヲ審辨シ以テ兩間事物  
ノ真偽ヲ断ス之ヲ審辨ト云フ又従前見聞スル所  
ノ事物ヲ記念スルノ力アリ之ヲ記憶ト云フ無取  
ノモノニ感動シ精神中ニ現然存在スルガ如ク思  
フアリ之ヲ意思ト云フ又形像未夕眼裏ニ入ル一  
ナキモノヲ集メ巧ニ之ヲ結構スルヲ想像ト云フ  
一事ヲ思フヨリ知ラス識ラス之ト累及スル他事  
ヲ思フアリ之ヲ合思ト云フ睡眠中ニ人ノ情思發



動ニ首尾全タカラサルノ念ヲ起スアリ之ヲ夢ト  
 云フ  
 良知良能ニ關セス各項ノ能力皆行ハレテ戾ルナ  
 キハ心ニ快キヲ覺フ此諸能力ハ一トシテ生々  
 ノ大道行為ノ正路ト關涉セサルハナシ知識追想  
 其正路ヲ得ハ人ヲシテ睿哲ナラシム良心動テ其  
 中庸ヲ失ハサレハ生々ノ幸福ヲ遂ケ教ヲ信シ德  
 ヲ修テ賢明ノ域ニ進ム可シ良能ノ第二項ハ人ニ  
 無害ノ幸福ヲ得サシムレハ動テ其中庸ヲ失ハハ  
 罪責アルヲ免レシメス第三項中ニハ自矜ト好譽

トノ兩目ニ於テ不良アルヲ見ル然レハ高德不足  
 スルモノニハ尚極テ緊要ナルアリ唯此二目ハ甚  
 タ已タシキニ至テ傲慢浮華ナルアリ傲慢ナルハ  
 ハ自カラ過高シ浮華ナルハ人ノ已ヲ過譽セン  
 イヲ願フアリ第四項中ニハ人ノ保護永續ノ為必  
 用ナル能力アリ然レハ皆其中庸ヲ失ヒ易シ中庸  
 ヲ失フハハ衆惡ヲ冒スニ至ル獨リ賢人君子ハ後  
 患ヲ慮リ善行ヲ勵テ此行弊ヲ抑制ス大九右等ノ  
 血氣ヲ制シ得テ全ク其間ヲ踰ヘシメサルモノハ  
 稀ナリ是故ニ人皆生レテ不善ナリト云フ



良能ハ獨リ動クモノアリ或ハ合テ動クモノアリ  
譬へハ尊敬ノ心獨リ動クキハ人ヲシテ孝虔ナラ  
シム今又之ニ加フルニ自矜ヲ以テセハ我教ヲ矜  
テ人ノ教ヲ賤ムニ至ラン譽ヲ好ムノ甚シキト惠  
ヲ施スノ意ト合フキハ人ニ恩ヲ賣リ惠ヲ贖クニ  
至ラン怒ノ甚シキト發伏鈎隱ノ性ト合フキハ刑  
ヲ行フ一殘酷ナルニ至ラン良心ハ純粹ナルヲ要  
ス然ラサレハ其功少シ良能ノ下等ナルモノハ常  
ニ良心ニ服従シ明德ニ裁制セラレ妄動セサルノ  
習慣アルヲ要ス然ラサレハ惡行ニ陷ルモノ少ナ

カラス凡ソ人ノ能力ハ事物ノ來テ之ヲ動スニ非  
ラサレハ靜一ナルモノナリ然ルヲ人常ニ其情思  
ニ感動サレ靜一ナルヲ得サルヨリ過失多クハ此  
門ニ於テス  
各項ノ能力各大小強弱ノ殊ナルアリテ其赴ク所  
陷ル所アルヲ知ルハ人ノ要務ナリ又人タルモノ  
ハ幸福ノ專ラ下文ノ四目ニ關シ徹幸ス可ラサル  
ノ理ヲ知ル可シ  
第一心カノ及ハサル所ヲ為サスシテ生快樂ヲ得  
ルノ資本ヲ立テンガ為適宜ニ良知ヲ世務ニ勞シ



格物學ヲ學フヲ要ス

第二動テ其中庸ヲ失ヘハ禍害ヲ生ス可キ能カラ  
抑制ス可シ

第三意思ヲ謹慎シ特ニ自矜好譽ノ二目ヲ謹ム可

シ此二目ハ輒モスレハ可罰ノ詐ヲ挾ミ不正ノ怒ヲ

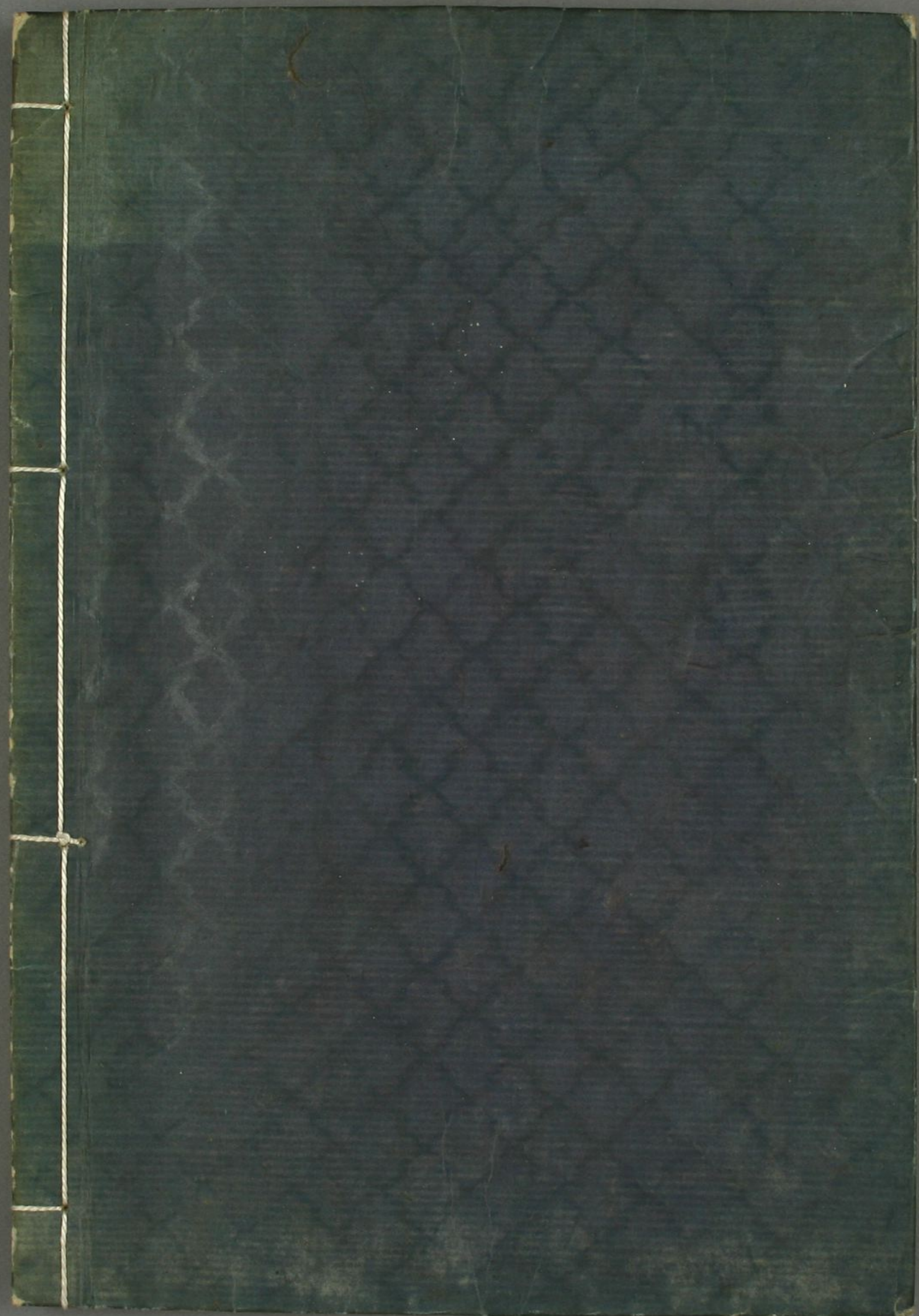
發スルアリ謹マサル可ケンヤ

第四居恆良心ニ服従ス可シ然ルキハ人之ヲ好ミ

シ天之ヲ容レン

博物新編補遺卷之下終 大尾







小幡篤次郎譯



博物新編補遺

明治二年  
己巳仲春

尚古堂發兌

